

# 歴史の道をゆく

阿仁街道

③



この地図は、建設省国土院の承認を得て、同院発行の1/200,000地形図を複製したものです。(承認番号 平12第複製第363号)

## ① 庄司家 (森吉町阿仁前田)

藩政時代からの大地主。大正時代には田畑386町歩を所有。阿仁前田小作争議の舞台となる。

## ② 四十八滝 (森吉町桂瀬)

阿仁川支流大滝沢に懸かる高さ35mの滝。滝壺の脇には今木神社が祀られている。

## ③ 浦田八幡神社の道標 (森吉町浦田)

文政12年(1829)に作られた。「右 ぐさかり道 左 銅山街道」と彫られている。

## ④ 米内沢舟場跡 (森吉町米内沢)

米内沢は阿仁川舟運の起終点の中間地点で中継基地として栄え、舟場には阿仁鉦山の浜蔵があった。

## ⑤ 御狩屋跡 (森吉町松栄)

秋田藩主佐竹宗家や大館城代小場氏(佐竹西家)が、阿仁鉦山見回りの際に仮小屋を建て休憩した。

## ⑥ 川井の延慶碑 (合川町川井)

合川町有形文化財で、死者の霊を供養するために建てられたもの。碑の高さはおよそ2m。

## ⑦ 麻生の舟場跡 (二ツ井町麻生)

米代川の舟渡し場で、ここから700mほど上流で阿仁川が米代川に合流していた。

## ⑧ 菅江真澄の著作「しげき山本」より

きみまち飯より見た米代川と七座山。享和2年(1802)の日記。(秋田県立博物館蔵〈写本〉)



⑧

⑦

**阿仁町役場前から鷹巣、小繋まで**  
阿仁街道のルートは阿仁町役場前の道を通って、左手の阿仁川への道を下り、喜鶴橋のやや下流地点から「湯口内の渡し」で舟で対岸に渡っていた。  
その後、吉田・大谷・五味堀を経て、阿仁前田の旧家・庄司家屋敷前を通るが、突き当たった右手に森吉神社奥宮がある。ちなみに、この森吉神社の奥宮が森吉山。街道は突き当たりを左折し、阿仁前田の小学校前に入るが、やがて惣内集落を抜けて、浦田地区に入る。浦田地区の浦田八幡神社には11基以上の庚申塔や、文政12年(1829)に建立された道標などがある。文字の上に「指差し」印が刻まれているの

が面白い。参道の常夜灯は、能代港関係者が明治33年に寄進したもので、阿仁川舟運との関わりを示す痕跡である。  
ルートは、大蛇鼻の左を巻く形で米内沢を目指す。大蛇鼻は大蛇の頭に見立てられた小さな岩山で、昔は阿仁川が崖にぶつかって渦を巻き、舟運の難所だった。米内沢は阿仁川舟運の舟着場であるとともに、七日市や上小阿仁方面への道筋が集まる交通の要衝としても栄えた。  
「浜辺の歌音楽館」の角を右折し、米内沢橋の右手が往時の舟着場跡である。昔から毎月2日・12日・22日に三斎市が立ち賑わってきた地域なので、石垣や石段、建物の造りなどに今も面影が残る。米内沢の外れの三叉路を、右に行くのが鷹巣への道、左が小繋への道だ。

## 鷹巣ルートを辿る

街道は国道から外れたり、田圃に消え失せたりしたあと、しばし国道と重なって続く。桜並木が美しい松栄地区から、やがて左手に大野谷地区の「御狩屋跡」が現れる。ここは、佐竹公が、阿仁鉦山巡視の帰りに休んだ場所だといふ。  
鷹巣町に入った堤のところで、ルートは国道から右に分かれ、林間の道を進むと岩脇地区に抜けて、再び国道に合流する。小繋部川は、小繋部橋の少し下流で徒渡りしていたようだ。街道はまた国道に重なり、すぐ右手に七日市の肝煎だった長岐邸があり、右奥の高台上にある神明社には庚申塔が残っている。小繋地区で国道285号と交差、その先はほぼ国道に並行する位置を街道が通っていたが、今は田圃になっている。街

## 小繋ルートを辿る

米内沢・小繋のルートは米内沢の三叉路を左に進み、しばらくは今の県道とほぼ重なっている。ただ時代によっては、流動的だったらしい。秋田内陸線・合川駅前を通り直進して、県道を横切り川井地区へ向かう。川井の道筋、右手の墓地の一角に、合川町指定有形文化財の板碑「延慶碑」がある。県内で2番目に古い板碑で、延慶2年(1309)の建立である。菅江真澄はこの碑文の中の一字を、「阿仁の沢水」の中で、「すがたことたへなる筆あとなり」と絶賛している。木戸石と増沢の間の阿仁川は、高長橋のやや上流側で舟渡りだったらしい。増沢側に渡った左手に水運の神様・金比羅神社を眺めて、ルートは現直道に合流。多々羅の丘近くを通過して二ツ井町の麻生地区に向かう。  
麻生の渡し(山崎の渡し)は、七座橋の約200メートル上流地点から斜めに、七座橋対岸付近に渡っていた。渡り終えた左

## 正式な阿仁街道

小繋ルートが羽州街道と合流する地点の近く、米代川河岸は羽州街道の難所「一里の渡し」の舟着場跡になっている。そして、きみまち飯の北側に、阿仁鉦山の銅を製錬した江戸期の一大プラント「加護山製錬所」の跡がある。  
鉦山経営との関わりからすれば、この羽州街道との分岐こそが阿仁街道の「起点」だったといえるかも知れない。  
一方、鷹巣ルートの鷹巣は、北秋田郡の中心地として、近世以降は米代川舟運の要衝の一つとして栄えた。そうしたこともあって、明治時代に入り、鷹巣に郡役所が置かれてからは、小繋ルートではなく鷹巣ルートが、正式な阿仁街道と呼ばれるようになったという。

# 阿仁街道